令和４年１０月１８日

大山町議会議長　米 本 隆 記　様

大山町議会議員　　近 藤　大 介

令和４年度大山町議会議員研修報告書

<table>
<tr><td>1</td><td>日　　時</td><td colspan="2">令和４年１０月１１日（火）～　１３日（木）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>研 修 地</td><td colspan="2">滋賀県大津市　全国市町村国際文化研究所</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">研修内容</td><td>（　内　　容　）</td><td>（　場　所　）</td></tr>
<tr><td>人口減少社会における議会の役割</td><td>滋賀県大津市</td></tr>
<tr><td>4</td><td>研修結果又は概要（意見・感想）</td><td colspan="2">一日目【講義】
１）地方行政の現状と課題～2040 年を見据えて～
講師：新潟大学　宍戸邦久　副学長・経済科学部教授
・「2040 年問題」とは、少子化による急速な人口減少と、団塊ジュニア世代が高齢者となり、2040 年頃に高齢化率がピークを迎える日本社会の諸課題である。
・「地域を次世代に引き継ぐ」ため、人口減少とどう向き合うか...
→目標とすべきは「友達１００人（≒18 人×6 学年）できる小学校」
小学校は地域コミュニティの核・拠点、子どもを核に地域はまとまる
→「地域の課題は地域で解決する」意識、自助共助の構築
→多様性に寛容な地域であること　　→危機感を共有し地域力を高める
・人口減少対策にどう取り組むか
→問題点を具体的に整理してみる
→「できない」でなく、「できる」ことは何か

２）過疎地域の持続可能なまちづくりを目指して
講師：福井県大野市　石山志保　市長
・住み続けたい結のまちを目指して
・ヘルスウォーキングプログラム…県外の自治体と連携
・すくすく子育て応援パッケージ…チラシで支援策の紹介、QR ｺｰﾄﾞ利用
・ＤＸ、脱炭素化など推進

二日目【講義＋演習】
３）わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える
講師：千葉大学大学院社会科学研究院　倉阪秀史　教授
・カーボンニュートラル「脱炭素社会」、2050 年実現を目指す（2020 菅総理）
温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする
2050 年の実現に向け、今からどのように取り組むか（ﾊﾞｯｸｷｬｽﾃｨﾝｸﾞ）
→脱炭素投資による地方創生効果
→どのような未来を実現したいか…ビジョンの共有が重要</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">研修結果又は概要（意見・感想）</td><td>【講義】
４）人口減少社会における議会の役割
講師：明治大学政治経済学部　木寺元　教授
・２つの中公新書「日本の地方議会」（辻陽）、「日本の地方政府」（曽我謙悟）を題材に。
・「多様な自治体に対応する多様な制度が必要」（辻）
・「首長に対抗できる専門知識、能力を持った議会」が理想（辻）
・女性の政治関心を高める必要性（特に若年層）
→女性議員が増えると政策が変わっていく可能性がある。
・「政治不信」について…「議長ポストや何だかよく分からない人間関係で罵り合うことがあるが、市民の政治不信を助長する可能性があるので避けるべき」
・人口減少社会…「公務住民」がいないと公共サービスがまわらなくなる。
・キーワードは「参加」…特に女性、若者を巻き込むこと。
・公務に関わることで、政治参加につながる。</td></tr>
<tr><td>まとめ
我が国は、２０４０年ごろに人口減少と高齢化により、内政上の大きな危機を迎えるが、地方の農村である本町にとって、少子高齢化の危機はすでに深刻な状況になってきている。
いかにして「地域を次世代に引き継いでいく」か…少子高齢化による人口減少社会の困難な課題について、どの講師も、住民参画、共助、協働といった住民の主体的な参加が不可欠であると繰り返し説明された。
その住民参加を促していくためには、住民代表である議会は、行政とともに、なぜ住民参加が必要なのか、今後の地域の課題を、住民とともに明確にし、具体的な将来ビジョンを共有することが重要であると学び、改めて、その認識を強くした。
今後の活動にしっかり生かしていきたい。</td></tr>
</table>